

※本資料は、第一回事業説明会で配布した資料です。

(9月8日町田市南市民センター内ホール、9月18日相模原市中和田自治会館で開催、各会場同じ資料を配布)

境川中流調節池(仮称)について

平成 27年 9月 8日(火)

平成 27年 9月18日(金)

東京都建設局河川部

東京都南多摩東部建設事務所

<問い合わせ先>

○調節池の計画等に関すること

東京都建設局河川部計画課

TEL 03-5320-5415

○現地での調査に関すること

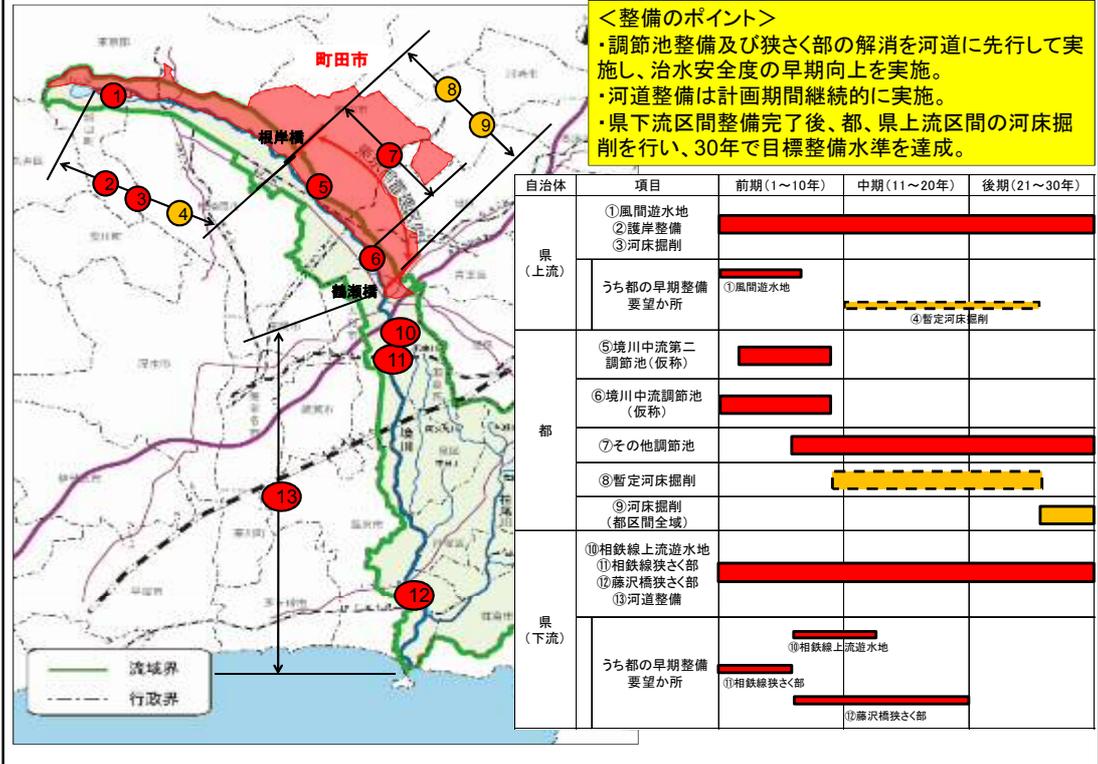
東京都南多摩東部建設事務所工事課

TEL 042-720-8644

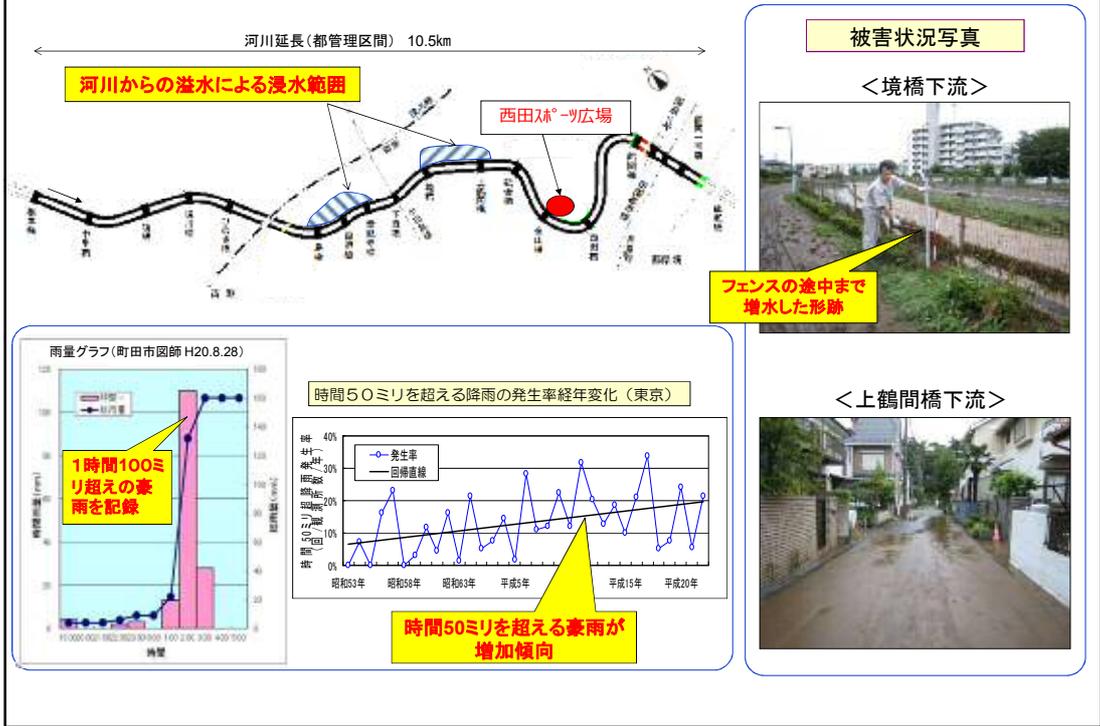
1. 境川の整備状況



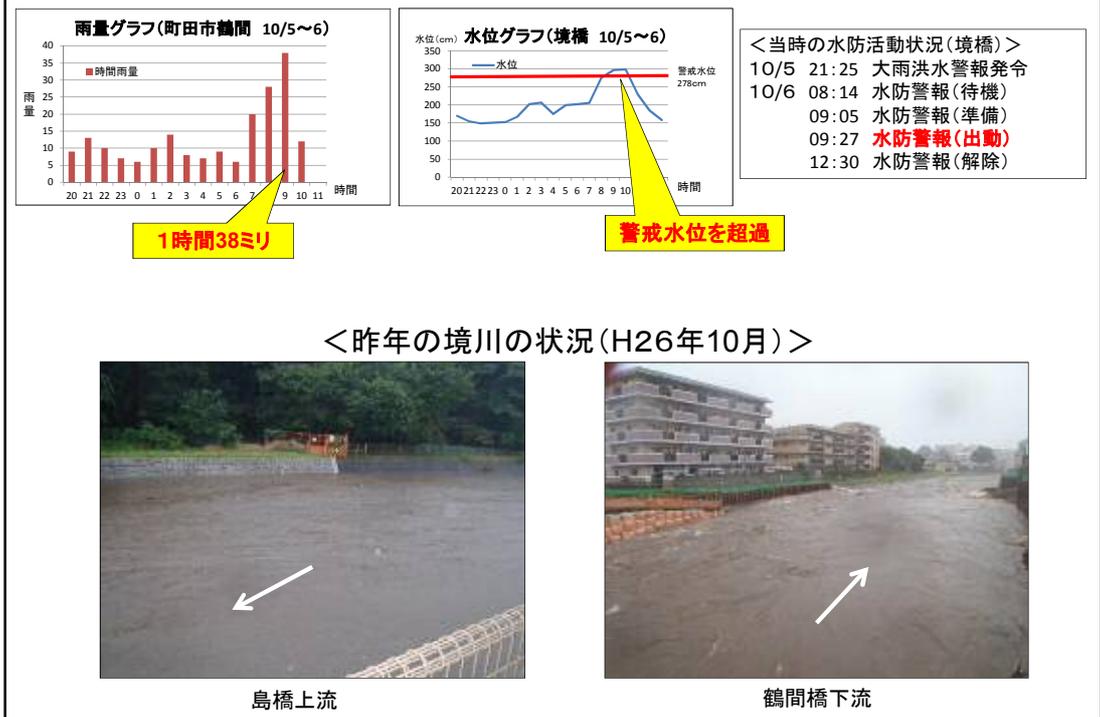
2. 今後の整備スケジュール(案)



3. H20年8月豪雨による被害状況



4. H26年10月の出水状況(台風18号)



5. 目標整備水準のレベルアップと整備の考え方

これまでの目標整備水準
1時間50ミリ降雨



新たな目標整備水準
1時間65ミリ降雨

中小河川における都の整備方針策定 (H24.11)
東京都豪雨対策基本方針改訂 (H26.6)
境川水系河川整備計画策定 (H27.4)

<調節池分散設置のイメージ>

総量約76万m³

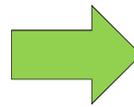
境川中流調節池(仮称)
⇒西田スポーツ広場



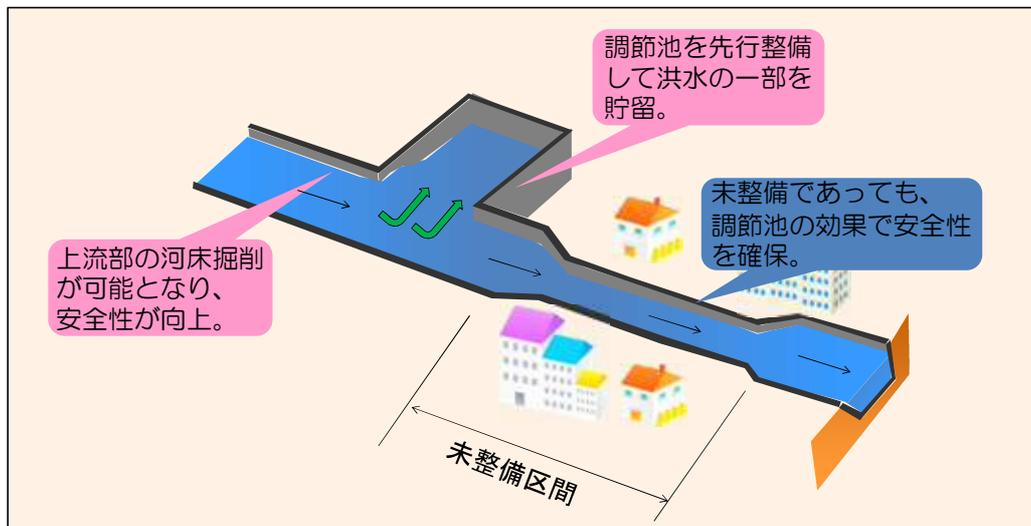
- 1時間50ミリまでの降雨は、河道で対応。
- 1時間50ミリを超える降雨は、川沿いに分散設置する「調節池」にためることで、1時間65ミリに対応。
- 調節池は公園など公共空間を活用し、効率的、効果的に整備
- この整備により、平成20年8月の被害も解消することが可能

6. 調節池の先行整備効果

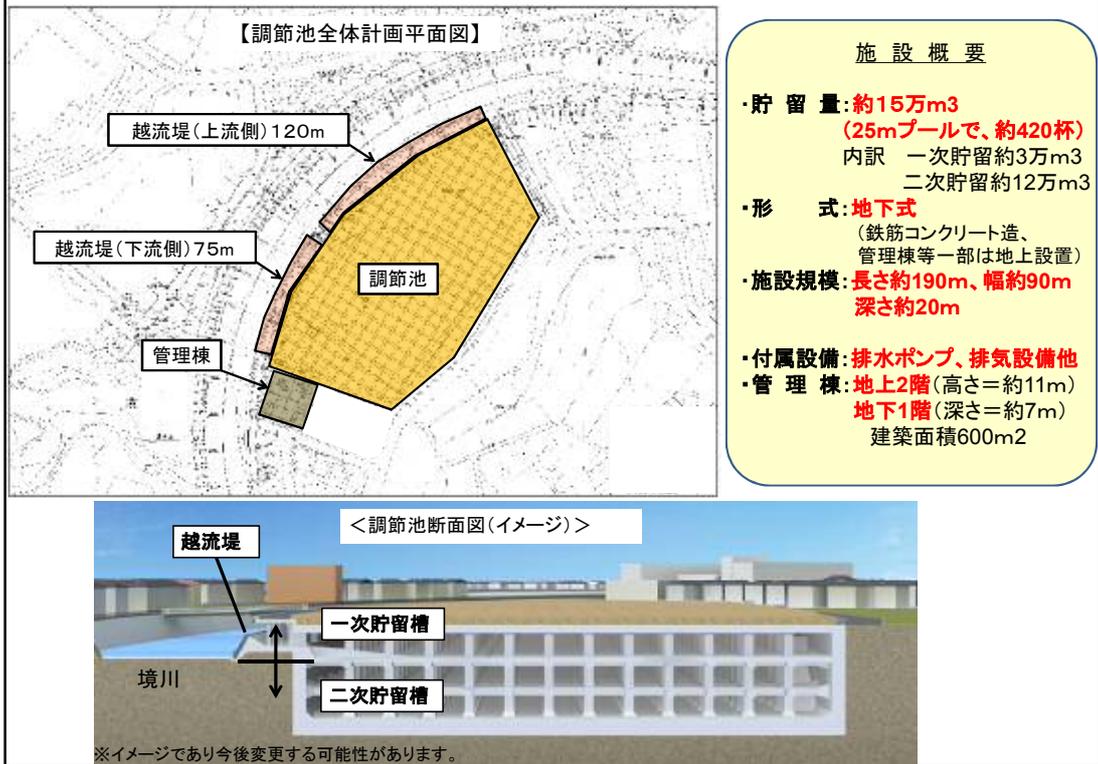
1時間65ミリ計画に位置付けられた調節池を先行整備



下流県区間の整備を待たずに、都区間の治水安全度を早期に向上



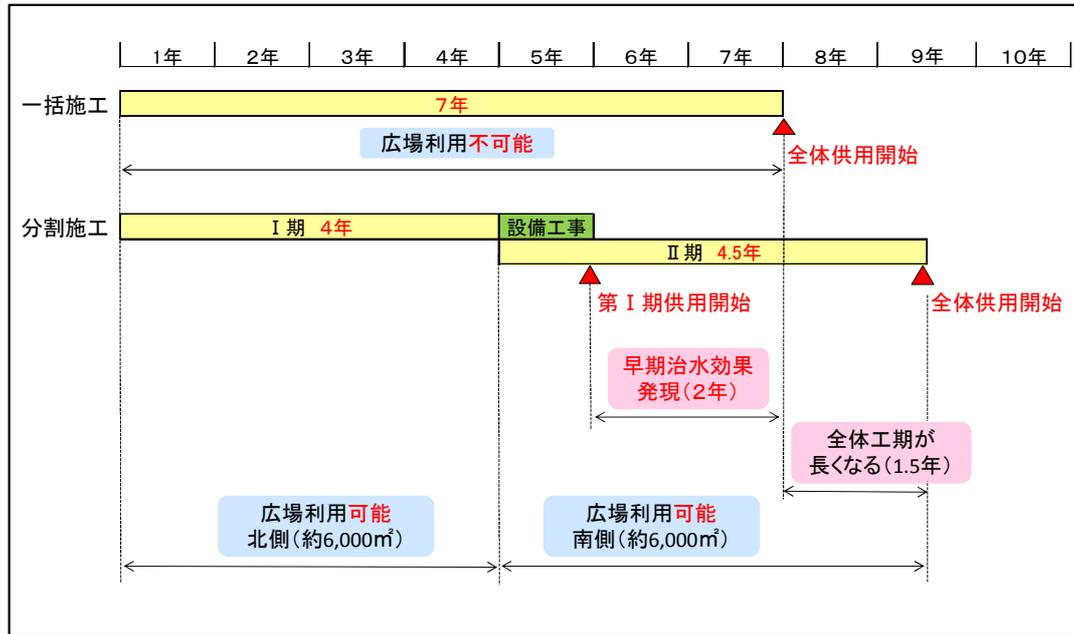
7. 境川中流調節池(仮称)の概要



8. 施工方法の比較(一括施工、分割施工)

	一括施工	分割施工
イメージ	<p>調節池全体を一括して施工</p>	<p>調節池をI期、II期に分割</p> <p>第I期 第II期</p>
工法の概要	・広場全面を使用し、調節池全体を一括して施工する施工方法。	・広場を分割し、調節池をI期、II期に分割して施工する施工方法。
工事費用	約150億円	約155億円
工期	約7年	約8.5年 (I期約4年 + II期約4.5年)

9. 工程比較(一括施工、分割施工)



10. 施工方法の比較と選択

	一括施工	分割施工
被害軽減効果	△ 効果発現に時間がかかる。 (8年目から)	◎ 一部効果の早期発現が可能 (6年目から、約2年の短縮)
経済性	○ より経済的な施工が可能。	△ 費用増は、約5億円程度。
施工性	○ 問題なし。	○ 分割施工に伴う技術的課題はない。
工事による周辺環境への影響 (工事現場周辺、搬出入ルート沿道)	○ 影響期間を短くできる。	△ 影響期間が若干長くなる。(1.5年程度) (対応) ・十分な騒音、振動対策を実施。 ・搬出入ルートの分散化により影響度合を低減。
広場利用への影響 ・夏祭りなどのイベント ・少年野球、サッカー、ゲートボールなど	× 不可 (代替地確保は困難)	△ 部分可 (半面となるが、継続利用が可能。利用者調整が必要。)

以上を総合的に判断 今回工事では**分割施工**を選択

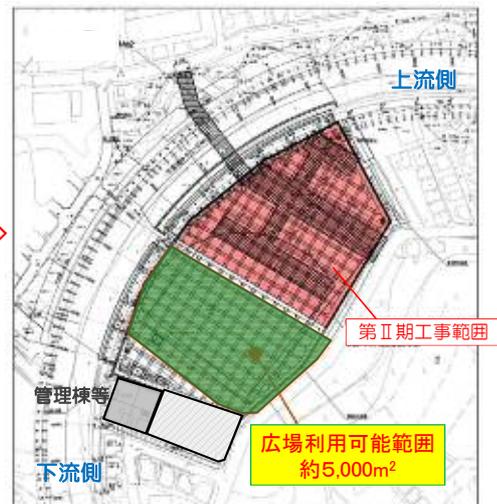
11. 分割施工の工事手順

<第Ⅰ期工事>



- 下流側の半分を施工
- 上流側の敷地は広場として継続利用可能 (約6,000m²)
- I 期工事完了後、下流側調節池を供用開始

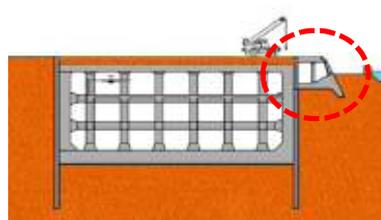
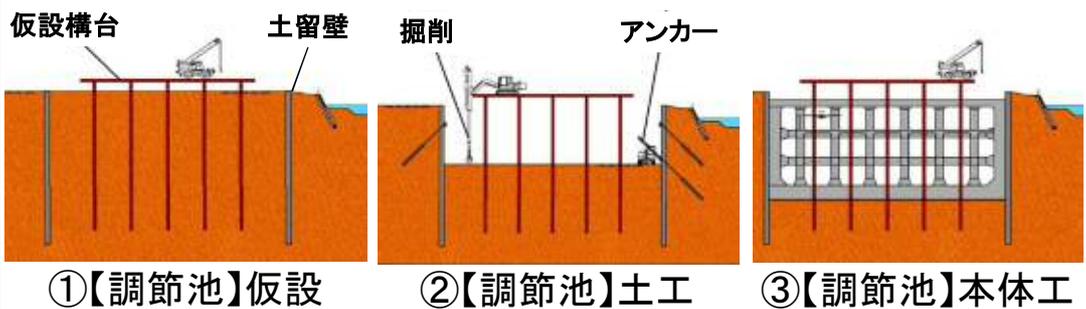
<第Ⅱ期工事>



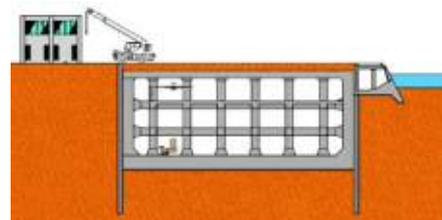
- 上流側の半分を施工
- 完成した下流側調節池の上部を広場として利用可能 (約5,000m²)
- II 期工事完了後、調節池全体の供用開始
- その後、町田市が上部施設を整備

12. 主な工事の手順

主な工事の手順は、以下の①～⑤工程となります。



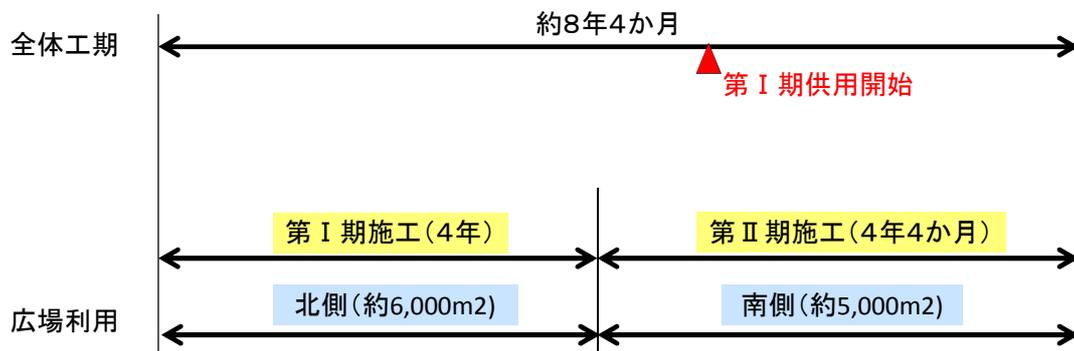
④【越流堤工】



⑤【管理棟・機電設備】

13. 工事スケジュール

工 期	1年度目 H28	2年度目 H29	3年度目 H30	4年度目 H31	5年度目 H32	6年度目 H33	7年度目 H34	8年度目 H35	9年度目 H36
準備工	■								
調節池	■				■		■		
越流堤					■				■
管理棟					■				■
機械設備 電気設備					■				■



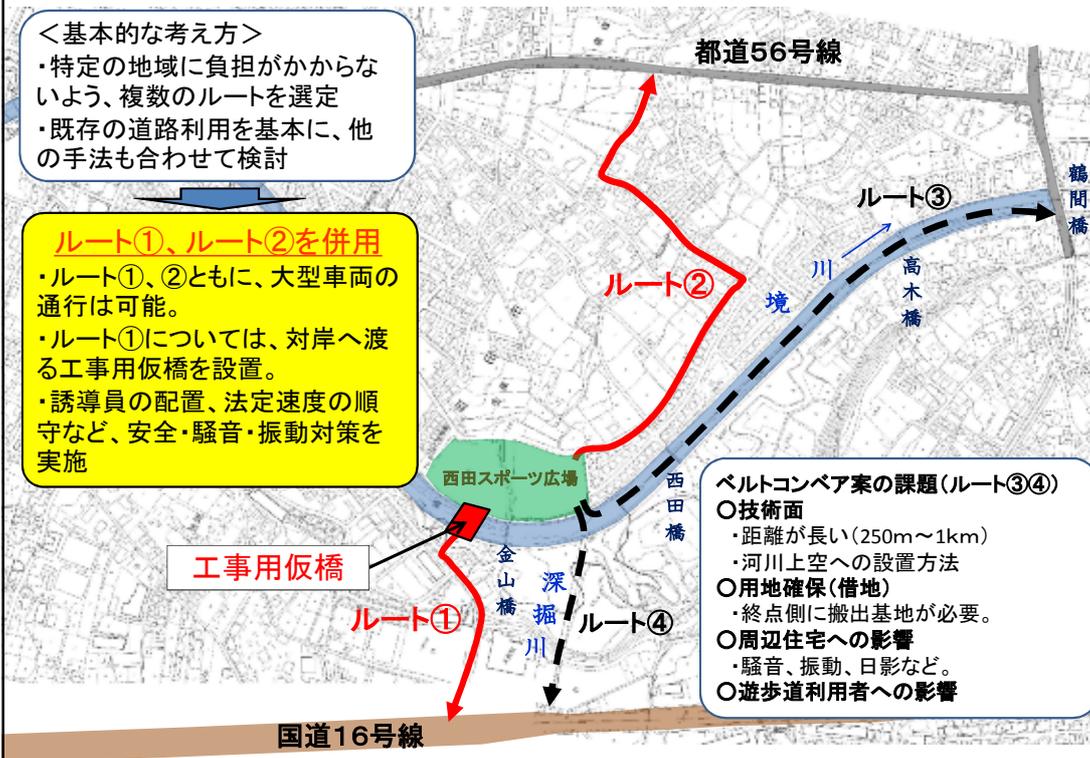
14. 搬出入ルートと比較選定

<基本的な考え方>

- ・特定の地域に負担がかからないよう、複数のルートを選定
- ・既存の道路利用を基本に、他の手法も合わせて検討

ルート①、ルート②を併用

- ・ルート①、②ともに、大型車両の通行は可能。
- ・ルート①については、対岸へ渡る工事用仮橋を設置。
- ・誘導員の配置、法定速度の順守など、安全・騒音・振動対策を実施



15. 騒音・振動対策について



土留・遮水壁施工時の想定騒音図(防音パネル設置時)

工事実施前の検討

○騒音発生源となる作業について 騒音レベルを想定

(想定される騒音最大値に対する評価)

- 敷地境界付近で最も周辺に影響があると考えられる**土留・遮水壁施工時**(アースオーガー使用)を想定
- **防音パネル**を設置した状況
※15dB程度の低減効果あり

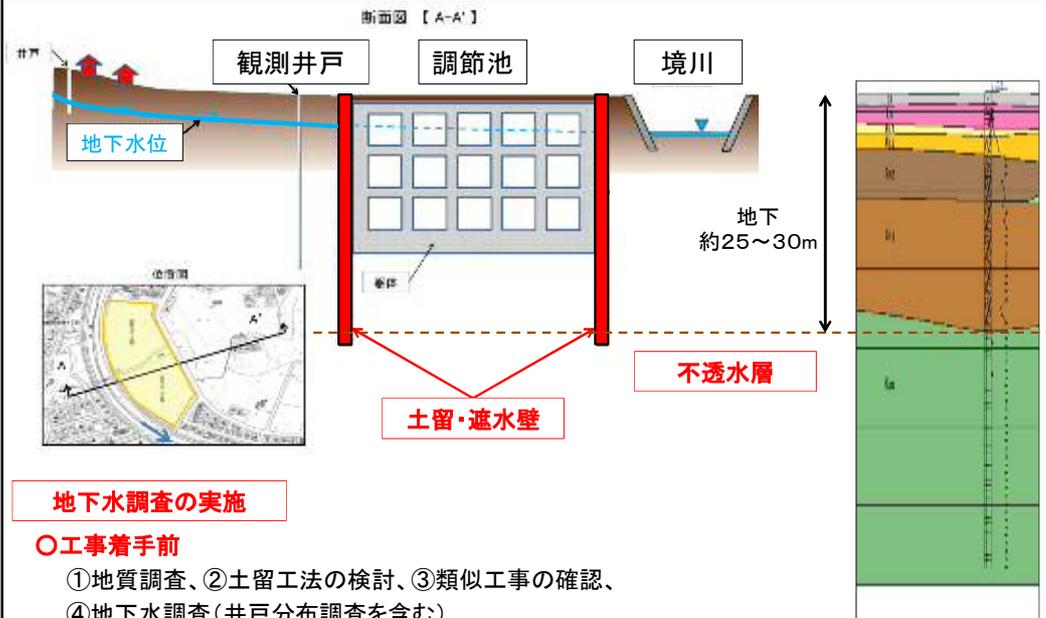
工事実施時の対策

○法令に基づき敷地境界において 騒音・振動基準を順守

- 低騒音型・低振動型建設機械を使用
- 防音パネル・防音シート等の設置

建設作業に対する騒音規制の基準
⇒80~85dB(作業の種類により異なる)
建設作業に対する振動規制の基準
⇒65~75dB(作業の種類により異なる)

16. 地下水対策について



地下水調査の実施

○工事着手前

- ①地質調査、②土留工法の検討、③類似工事の確認、④地下水調査(井戸分布調査を含む)

○工事着手後~工事完了後

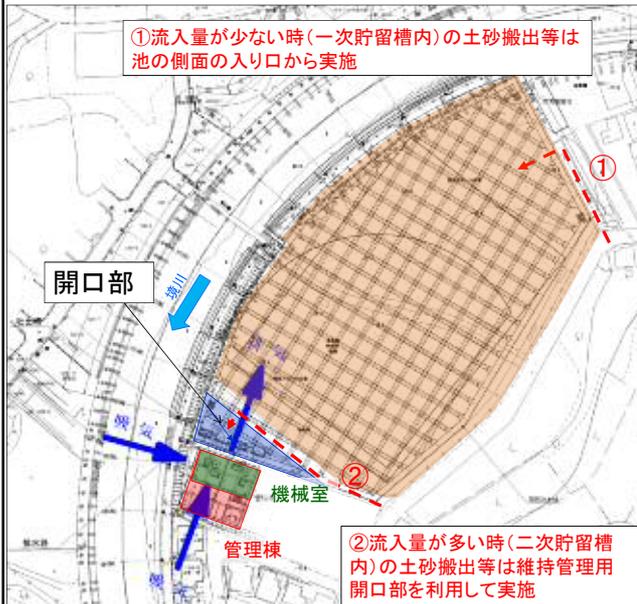
- ①地下水調査(一斉観測)、②地下水調査(長期観測)、③水質調査

※工事に伴い被害が発生したと判断される場合、損害賠償手続きを行う。

地層断面図
(地質調査結果より)

17. 調節池完成後の維持管理について

<維持管理時の進入ルート等のイメージ>



調節池流入に伴う作業

○排水作業

- ・ポンプ数台使用し24時間以内に完了

○調節池内の洗浄及び換気

- ・排水作業後に実施
- ・泥土等は廃棄物として排出処分
- ・換気は南側住宅方向、境川方向から吸気し、公園側に排気
- ・機械室壁に吸音材を貼る等騒音対策を実施

○堆積土砂の搬出

- ・4tトラック、ミニバックホウ等により実施
(年1~2回程度想定)

上記以外の作業

○調節池内の清掃

- ・状況に応じ実施(年1回程度想定)

○構造物の状況確認

○機械・電気通信設備の点検

- ・定期(年12回程度)及び強地震時

○管理棟等施設の清掃

- ・状況に応じて実施

18. 工事着手までのスケジュール(予定)

工事着手までのスケジュール(予定)

平成26年度

- ・基本設計
- ・地質調査
- ・町会役員、スポーツ利用者団体代表者への事前説明会(10月)

平成27年度

- ・事業説明会(今回)
- ・詳細設計(平成27~28年度)

平成28年度

- ・工事説明会(詳細設計完了後、工事着手前)
- ➡工事着手